

令和 6 年度

練馬区立田柄第二小学校学校経営計画

校長 岩井 一雄

(はじめに)

昭和、平成、令和、教育界の大きな変遷を経験して今日を迎えた。昭和の詰め込み教育への反省から平成初期には、ゆとり・学校週 5 日制へ移行があったものの、学力低下等の課題が生じ、令和の主體的・対話的で深い学びへと移行したこと。他にも、三学期制から二学期制へ、そして再び(新たな)三学期に移行したことなど、大きな変遷があった。

新たな制度・ツールが出現するたびに心を躍らせ、趣旨や活用方法を学んで、教育課程に位置付け、教材を開発して児童に向き合ったが、大きな方向転換が必要になった経験もある。

こうした経験を通し、時代を超えて学校で最も大切なことは、「真に価値あるもの」を見つめて日々の教育を進めること、との思いに至った。それは、児童が集う学校という場では、関わり合いを大切にし、教師が明確な指導観をもって、ねらいを吟味して授業を行うことである。

学校教育目標

○ 元気な子供 ○ 考える子供 ◎ 思いやる子供

目指す学校像

進んで関わり、自己実現の基礎づくりを進める学校

中期経営目標

視点 1 自分や他者を大切にする共生の心を育むとともに、児童の規範意識を醸成する学校

視点 2 指導法の改善に務め、家庭と連携し児童の願いも生かせる授業・行事を進める学校

視点 3 児童が心身ともに健康で、不登校やいじめのない学校

視点 4 児童が練馬区や地域、母校を誇りに思うとともに、地域・保護者から愛される学校

令和 6 年度の取組

◎ 学校がチーム「田二小」として視点 1を目指し、家庭・地域と連携しながら進めていく。

○ 対話を通して、学びを広げ、深められる児童像を明確にし、これまでの研究で児童に培われた考え議論する力を、互いに考えを深め、練り上げる力に高める

○ 児童と教師、児童相互、児童と地域など、豊かな関わりを促す場を、充実させる。

(学習発表会 体育発表会 児童集会 合唱・合奏 団体競技 農業体験 地域行事 PR 等)

○ プログラミング教育、タブレットパソコンを活用した教育などについて、指導のねらいを吟味したうえで、指導の工夫に努める

○ 田二小スタンダードの定着を図り、全職員が共通の指導を行う

視点 1

1. 考え議論することを通して、互いの考えを深め、認め合い、練り上げる児童の育成
 - (1) 考え議論する道徳の研究を踏まえて諸授業・活動の充実を図る
自他の考えには相違点があることに気づかせ、共に学校生活を進めていくにはどのようなのがよいか、認め合い、高め合う経験を重ねる
 - (2) 日常の取組の重視
あいさつ運動(中学との連携も検討) 児童の思考や学習態度の観察、面接の実施
2. 「美しい挨拶・所作」を大切にしたい言語環境の整備
 - (1) 返事、あいさつ、廊下右側歩行の重視、教職員が率先垂範
 - (2) 立場や場に応じた適切な敬称と心遣い
3. 落ち着いて学べる学習環境の整備
 - (1) 花と緑に囲まれたうるおいのある学習環境の整備
人権の花の育成 整備の行き届いた校舎内外 壁面を利用し植物や校歴、エピソード等の紹介写真展示
 - (2) マルチルームの積極的な学年、専科利用、各種教育情報の掲示、各教室の整理整頓
 - (3) けやきルーム(巡回型支援教室)、教育相談機能の連携と充実
 - 校内委員会を中心に教員、特別支援教育コーディネーター、巡回教員、SC、専門員、心のふれ合い相談員、校外諸機関との連携
 - 担任一人で抱え込まず、組織的対応
 - ユニバーサルデザイン、幼小連携、特別支援教育の手法を取り入れ、一人一人の困り感をなくす指導を推進
 - 個別指導計画に基づいた指導の推進

視点 2.

1. アクティブラーニングの手法を取り入れた思考力・判断力・表現力の育成
 - (1) 教師が 1 単位時間を貫く明確な指導観をもち、ねらいと発問を吟味したうえで、考え議論する時間を設定
 - (2) 児童の言葉で学習課題を明確にもたせたり、学習の振り返りをさせたりする
 - (3) 講師を招喚した研修会の実施、幼保・小中連携による研究の充実
 - (4) 練馬区キャリアパスポートを活用したキャリア教育の実施
2. 授業のねらい、学ぶ意欲を大切にしたい授業の実施
 - (1) 導入・板書計画、ノート指導の工夫
 - (2) 日常的なタブレットパソコンの活用
3. わかる授業を進めるための指導体制の充実
東京ベーシックドリルの活用、習熟度別授業の充実、交換授業や合同授業の実施
経験豊かな講師による指導の充実、地域未来塾との情報連携

4. 基礎・基本の充実

朝のモジュール学習、朝読書(1～4年)、家庭学習・補習学習の充実(タブレットパソコン活用、学校図書館の有効活用(読書旬間、読み聞かせ、探検ラリー　おすすめの本紹介等) 校内研究では、議論し考えを深め、共に生きていこうとする児童の育成を目指し授業改善を図る)

5. プログラミング教育の推進

算数、理科など、さまざまな教科でプログラミング的思考を取り入れた授業を工夫する

視点 3

1. 体力の向上

(1) 取組カードの活用等、運動への取り組みの日常化

(2) 体育科授業の充実

体力テストによる授業改善、専門家の指導

2. 安全教育の充実

(1) 様々な危機的な状況を想定した安全指導、避難訓練、セーフティー教室、地域の力を取り入れた防災訓練

(2) 安全に関するさまざまな活動を行い、自助・共助の態度育成

3. 心の教育の充実

(1) 不登校やいじめのない学校づくり

(2) 一人一人の児童が抱える背景を深く理解した教育活動の推進

4. 食に関する指導の充実

(1) 給食を中心とした食に関する指導の充実

(2) 民間委託業者との連携

5. 健康に関する教育の充実

感染症防止のための継続的取組　養護教諭や学校医による指導　体育(保健領域)の充実

6. 家庭と連携した「早寝　早起き　朝ごはん」の取組

視点 4

1. 児童の発想と地域力を生かせる体験的活動の充実

(1) 地域の方を招いた体験学習の充実

枝豆の収穫(1・2年)　青首・練馬大根づくり(3年)　盆栽教室(4年)

田柄水道学習(4年)　トウモロコシの皮むき(5年)　生け花　茶道　能体験(6年)等

(2) 児童の思いや願いを取り入れた行事の構築・連携

学校行事　体育学習発表会　学習発表会

青少年委員主催　夏休みラジオ体操、ドッジボール大会

学校応援団主催　学校応援団祭り

働き方改革に関する事項.

○時数軽減モデル校として担任の時数軽減による計画的な職務の遂行を進めることにより、在校時間が週55時間以上にならないようにする

○新たな提案については企画会、職員会議以前にも、広く情報の共有するようにして事前の理解を進めておき、時間短縮に努める

○退勤時刻までに連絡、相談を終え、育児・介護等、お互いの時間を尊重する

○長期休業中の閉庁日の設定 毎週水曜日を定時退勤日とする

○教員の働き方改革について、地域保護者への理解・浸透を継続して図る

○働き方改革を、新たな取り組みを忌諱する理由づけにはしないように留意する